



↑こちらからどうぞ

人権協シンボルマーク



いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。

ふれあい

人権協HPが
できました!

第4回町民人権講座



パパはお天気キャスター

～正木家の子育て～

9月17日(土)、大型で非常に強い台風14号の接近が懸念される中、朝の情報番組でお天気キャスターを務める正木明さんの講演会が開催されました。

この講演会は、昨年度企画していたもののコロナ禍で延期となり今回開催の運びとなったもので、開催が決まってからはテレビでお顔を拝見して開催を楽しみにしていました。

講演会は、まず、気がかりとなっているお天気からスタート。正木さんのお天気情報を、土曜日にしかも生で聞くことができるというスペ



9/17
sat.



シャルトークには、会場の参加者から思わず拍手が…。そして、ご自身の子育てを振り返ってのお話がありました。その中では、仕事柄お子さんと向き合う時間が多くあったが、特に、自我が芽生える頃からご夫婦で子どもの行動の意味を考え、話し合ってきたと父親としての子育てを振り返っておられました。

現在は、ご自身の子育てから次代を担う子供たちへ、命を繋ぎ育て地球を守ることをご自身のライフワークとされ、全国の学校で講演をされていらっしゃるそうです。その中で、気候変動や自然災害の多発する地球を環境破壊からどのようにして守っていくのかを、自分たちで考え行動する若者たちにも出会い、その積極的な行動をどう受け止め見守るか、これは、まさに子育てと同様だとおっしゃっていました。

「子どもの声に耳を傾け、必要以上に口出しをせず、しっかり見守る」正木家の子育ては今、全国の子どもの育ちを支える大きなプロジェクトに繋がっていると感じました。

テレビ画面の向こうと実際の姿がまったく隔たりの無い、温和ながらも強い信念を持ち行動される正木さんの講演会。子育て・お天気・災害予防と盛りだくさんな話題で、あっという間に時間が過ぎました。

毎日、テレビで見る方の講演と生天気予報が聞け、楽しく聴講することができました。最初、お天気、気候変動から人権との結びつきがあるのかと感じていました。しかし、グレタさんの話から、一般の枠から外れた人、若い人だから理解しない、できないという見方をしてしまうが、その人たちの見方が正木さんの子育て理論とつながっていると思いました。小さいから、幼いから、病気だからと決めつけた見方が大切なメッセージを逃しているなどと思いました。

話の流れが良くわかりました。キャスターとしての話し方と講演者としての話し方って違うんだって実感しました。子どもの行動には意味がある。それに気づいてやれる親の心の余裕が必要であると分かりました。すぐ反応するのではなく、親が一呼吸おいて考え、対応していくことが大切なのですね。若者の主張にどう向き合うか、どう聞くとかいかに問題提起されていたと思いました。

いつも「おは朝」を見ているので、正木さんがどんな話をされるのか興味があってきました。子育ての話も、活動を通しての子どもの姿も知れてためになりました。人権講座ということで子育てのテーマだと思いましたが、防災の講座も良かったと思います。次はぜひ、90分防災の話の話を聞きたいと思いました。

第2回町民人権講座

LGBTのこと、そして人権

— 誰もが生きやすい社会へ —

6/30
thu.

【講師】 南 和行 さん



6月30日（木）、弁護士の南和行さんを大阪からお招き講演会を開催しました。南さんは、学生時代に知り合った恋人と二人で弁護士になることを目指し、見事司法試験に合格し弁護士になりました。その後、その方と2011年に結婚式を挙げ、弁護士夫婦（ふうふ）となり、2013年に同性カップル弁護士の法律事務所「なんもり法律事務所」を開設されました。

南さんは、幼少期に自分はいつになったら女の子に関心を持つのか不思議に思っていて、思春期に入り「同性が好きだ」ということに気付き、そんな自分を受け入れるまで葛藤があり、辛く悩ましい日々を過ごされていたそうです。

その後、大学4年生の時に父親が亡くなり、そのタイミングで母親と実兄に本当の自分のことを打ち明けたそうです。結果、自分が思っていた100倍以上の断絶状態になったものの、母親と実兄の心中で徐々に変化が生まれ、10年程かかりつつも、家族との関係性は改善されたそうです。

講演を拝聴し、私達が普段「普通」「常識」だと思っていたことが、実は偏った考え方ではないかと考えさせられました。自分の周りの何処かに南さんのように辛い思いをして日常を過ごしている人がいるかもしれない、そう考えると私達一人ひとりが偏見を持つことなく、誰もが住みやすい社会になって欲しいと強く感じました。

自分理解、他者理解、そして理解しあうこと、認め尊重しあうこと、間違ってたかもと気づいたとき考えを変えられる自分、それを大切にしたいと感じました。

理解しているようでよくわかってないなと思います。「私は差別しないから」って無責任な言葉ですね。それはわかりました。人権って幅広い。人権は大事にしているつもりでいることが多いなと感じました。

どんな人も当たり前で生きていく世の中であってほしいし、自分の考えも全てを受け入れ優しくなりたいと思います。すごく考えさせられる時間でした。ありがとうございました。

第3回町民人権講座

映画 「子どもたちをよろしく」

8/6
sat.

8月6日（土）、第3回町民人権講座として、映画「子どもたちをよろしく」が上映されました。この映画は、中学生のいじめと自殺、その裏にある家庭の問題を描いた人間ドラマです。

いじめに苦しみ、そのために死を選んでしまう少年、性的虐待を受け自らを「汚れた存在」と思い込んでしまい風俗産業で働く少女など、子どもたちが、悩み、苦しみ、他人を追い詰め、自分を追い詰めていく様子が描かれています。そしてそれは子どもたちだけの問題ではなく、アルコール依存、ギャンブル依存、対人依存、同調圧力など、子どもたちを取り巻く社会に蔓延する闇、大人たちのありようが問題の源なのではないか。そんな子どもたちに、われわれ大人は手を差し伸べることができるのかということを考えさせられる作品でした。

目を背けたくなるような悲しいシーンも多く、見終わった後は心苦しい気持ちになりましたが、映画の中で描かれている状況が、自分のまわりで起こらないとは限りません。そのことを一人ひとりが念頭に置き、一緒に考え、子どもたちが一人で悩み、苦しみ続けることがないように行動していかなければならないと改めて考えさせられました。

重すぎてつらかった。でも現実にあることなのだろう…全てが子どもたちにしわよせがきていることを、大人は知らなければいけない。

子どものいじめや、親のアルコール依存など、考えさせられる課題が多くあり、とても切なく感じました。大人社会がもっと子どものことを考えていかなければと思いました。

情けない大人たちの状況、子どもたちの状況に目を疑いました。この状況が現実とすれば恐ろしいことです。大人の自覚と役割を促される思いをする映画でした。

大変考えさせられる映画でした。今、現実で起こっていることだと思い、本当に子供たちの生活、環境の大切さを考えさせられました。子どもだけの力では、どうすることもできないのか、現実で私たちに何ができるのかを考えさせられました。



人権協部会紹介 その3

人権擁護・啓発部会



部会長 瀬戸 弘勇

人権擁護・啓発部会の主な活動

- ・人権啓発活動
- ・推進委員交流会
- ・人権擁護活動



「私たちが小中学生のころ、こんなことを考えていましたかねえ？」

「いやいや。とてもここまでは考えていなかったような気がします。」

「それと比べると、今の子供たちは人権意識がとても高いですねえ。」

子供たちが描いた人権ポスター・人権作文の展示を見ながら交わした会話です。40～50年前とは比べものにならないほどの人権意識の高さに驚きながら、長きにわたる啓発活動の成果を見たような気がしました。



夏フェスタ美浜にて

私たちの部会は、みんなが集まるイベントがあると、どこへでも出かけて行って啓発活動を行います。また、町内の事業所を回って人権意識の啓発も行っています。それは、例えて言えば紙一枚を積み重ねるような地道な活動ですが、確実にみんなの心に人権擁護の種を植えているものと確信しています。

また、人権協会員同士の交流会も企画しています。部会ごとに分かれて活動している人権協ですが、それぞれの部会が交わることはなく、他の部会の活動や部

会員を知る機会はありません。そこで、部会の枠を超えた交流会を開くことにし、互いの活動に対する理解や意思の疎通を図ることを考えまし



推進委員交流会の様子

た。当初は参加人数もそれほど多くはなく模索を続けていましたが、近年参加人数も増えてきて、部会を超えて互いに理解しあい、また自らの人権意識を高めるための大切な場となっています。

当部会は、法務省から委嘱された人権擁護委員が在籍していて、人権侵害事件に対して調査・救済のできる体制になっています。役場や社協などの窓口から持ち込まれた訴えを全員で話し合い、解決の糸口を探り、必要に応じて法務局との連携を図ります。東京や名古屋・大阪などの大都会と比べて相談件数は多くはないものの、人権侵害が対人関係を要因とすることを考えると、地方だからと言って全く無いわけではないと考えます。苦しみ悩む人たちの一助になる部会でありたいと思います。



人権のつどいにて

「あなたが大切にしていることや物はありますか？ 友達や家族だったり、自分の好きな物だったり人それぞれかもしれないね。私が大切にしていることは「時間」です。

今から10年ほど前、私が小学生の頃の話です。いつも通りに、家に帰ろうと下校をしていました。家の前がいつもとは違うことに気が付きます。見たことのない車と多くの人がいました。どうしたのだらうと思うと、仕事に行っていたはずの父がいました。玄関に着くと父が近づいて来て、私にこう言いました。「叔母が他界した。」私の頭は「？」でいっぱいでした。最近まで元気にいたのに急になぜ？ 後から聞いた話ですが、叔母は癌だったそうです。休みの日になると、買い物に連れて行ってくれた優しい叔母に直接「ありがとう」を言えませんでした。だから、私は時間を大切に過ごしています。そして、起きたことに対してすぐに感謝をするようにしています。

皆さんも、家族・友達の時間を大切にしてください。あたりまえはいつまでも続くとは限りません。感謝の気持ちを忘れずにいましょう。

時間と感謝

「執筆」宇都宮 魁人

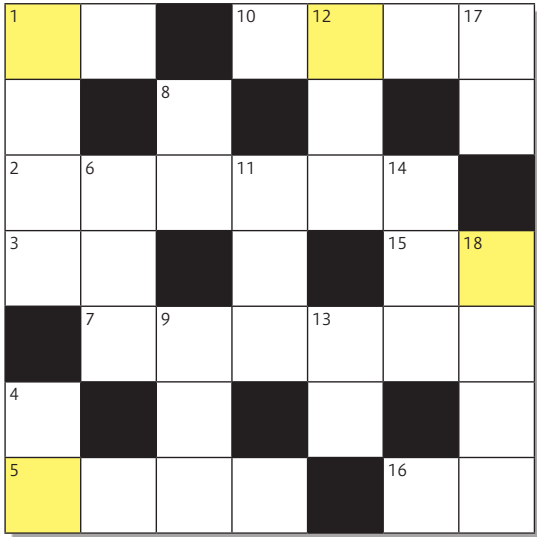


人権コラム



「ふれあい」第77号をお読みになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介いたします。これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

- ◆人権講座に参加させて頂く度に、自分の傲慢さに気づき、心が洗われる気がしています。(K.Kさん)
- ◆令和3年度の第6回町民講座「あきらめない心」の講演は大変感動しました。看護師として障害を持ちながら仕事を続け、水泳での活躍など素晴らしい生き方にたくさんのことを学ばせて頂きました。バイオリンの演奏もすばらしかったです。困難を乗り越えて前向きに力強く生きる姿を多くの子供達にも大きな感動を与えたことと思います。(M.Jさん)
- ◆毎年、人権作文に応募させて頂いています。自身の生活をふりかえるいい機会になっています。(H.Tさん)
- ◆人権コラム、編集後記を読んで、コロナ前・中・後を考えさせられる良い機会となりました。人と人が互いにむき合って顔を合わせることの大切さ。そして、この誌面のタイトルである「ふれあい」の大切さ。これからはしっかりと考えていきたいです。(S.Yさん)



■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかでお願いします)

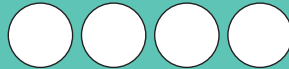
● 答え・住所・氏名を巻末の用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷土29-3 人権協事務局 (生涯学習センターなびあす内)
※ FAX(0770-32-1222)
E-mail(jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)



- 〆切は、令和5年1月27日(金)です。(当日消印有効)
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「あおぞら」でした。たくさんのご応募、ありがとうございました。正解者は14名でした。

今回の当選者は **中田 英祐さん 小川 育代さん**
高木 りえさん 辻井 琴菜さん 畠中 千里さん
以上の皆さんです。おめでとうございます!

人権クロスワードパズル 黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



ヨコのカギ

1. 髪の毛をすいたり、髪に挿して飾りに使ったりする道具。
2. 「魔王」や「野ばら」などの楽曲が有名なオーストリアの作曲家。
3. 丸いもの。投げたり転がしたり…。
5. 卵の卵白を泡立てた食材。お菓子づくりなどに使われます。
7. 映画などの撮影を開始すること。
10. 野球のフォアボールとデッドボール、漢字で書くとどちらも読みが同じです。
15. 「£」と書く、トルコなどの通貨単位。
16. じゃんけんで出す手の形の一つ。『タテ8』に負けます。

タテのカギ

1. 実際は、下ではなく履いて中に入れます。
4. 天気記号で●が表す天気は？
6. 水面などにできる油の膜のこと。
8. じゃんけんで出す手の形の一つ。『ヨコ16』に勝ちます。
9. 渦巻きのように巻いているもの。「〇〇〇階段」など。
11. スイスの首都。
12. 刻みタバコを吸うための道具で「煙管」と書きます。
13. 周りをトゲトゲに包まれている秋の味覚。
14. 神社の入り口に建てられている門のこと。
17. 周りをトゲトゲに包まれている海の生き物。
18. 競走で走る人のこと。

編集後記

◆令和2年に国勢調査が行われました。その中に「世帯の状況」という項目があります。注目したいのは一人暮らし世帯で、その割合は38.1%に上ります(15年間で8.6%増)。福井県では29.7%(10世帯のうち3世帯が一人暮らし)です。全国から見れば割合は低いですが、福井県だけを見るとその数は平成2年からの30年間で2倍以上に増えているそうです。◆もう一つ、一世帯あたりの人数に目を向けると、福井県の30年前は3.5人だったのに対し、令和2年では2.6人に減っています。ちなみに美浜町は2.4人で、福井県の17市町のうち4番目に少ない町となっています。◆これらをどう見るかはいろいろですが、①核家族化 ②高齢化 ③少子化 ④未婚

者の増加 ⑤単身赴任者の増加 などでしょうか。コロナ禍も相まって、人とのつながりが希薄になる一途をたどっているのは否めません。人とのつながりは本来煩わしいものなのでしょうか。何もかもが便利になってきた昨今、確かに一人で生活することには何の支障もありませんし、好きなことをして暮らせるのは楽だとも言えます。◆ふと武田鉄矢さん(海援隊)の人として♪のサビを思い出しました。♪人として人に出会い 人として人に迷い 人として人に傷つき 人として人と別れて それでも人しか愛せない♪…いかがでしょうか。(西)